

3 - 4 団員報告書（堤、原団員）

- 添付資料 1 技術協力計画進捗状況表 （Annex11-1および2参照）
- 2 カウンターパートプロフィール
（インタビュー結果総括表）
- 3 人員配置表 （Annex5-2参照）
- 4 供与機材稼働状況表
- 5 供与機材配置表
- 6 新実験棟部屋割りに関する意見書（暫定的な協議結果）
- 7 新実験棟レイアウト案

1. 技術協力計画について

1) 概要

技術協力計画進捗状況表（別添1, 2）とTITUC/Pインタビュー表（別添3）の作成により、現状の掌握と後期計画を整理した結果、技術協力計画は概ね順調に推移しているが、後期計画においては、今後予定されているTTIへの一部組織移管、新実験棟の建設とそれにともなって予想される組織変更などの外部要因、実務教育の重視、品質管理技術（業務の能率化手法）及び、機器分析技術の移転に対する対応が重要と判断された。

PCM、PDMについては再度山下団長よりタイサイドに説明を行ったが、理解度に関しては満足すべき感触があった。このように当該理解度が深まった段階において、タイサイドからは特にPDMの改訂などに対する意見はなく、心配されたTTIとのデマケーションも明確にされたので、現地長期専門家チーム（以下、専門家チームという）の見解どおり中間モニタリング時に必要により細部を（例えば”ISO規格”を”国際的な規格類”に変更するなど）見直す考えである。

なお、技術協力計画進捗状況表による評価手法については、タイサイドより高い評価があったが、これら新しい流れは作業量の増加も含むので、日・タイ両サイドの正しい理解と相互調整が必要となり、関係者の自覚と共に、特に調整員の意識改革が重要となろう。

2) 外部要因への対応

1 昨年行われたTIDの組織改革に対し、これが検査・試験業務の能率を低下させているとの判断がタイサイドにあり、新実験棟の完成と並行して、Lab1～Lab3組織を、従来より日本サイドが提案していた物理・検査と化学の2分野に再編しなおす組織改革の動きがあり、その可能性が強い。このため今後タイサイドとの緊密な情報交換と適切な助言が不可欠となるが、新実験棟への移転も含め大切な時期が長期専門家の交代時期と重なってくるので、新旧専門家間及びJICA本部、国内委員会の緊密な連携が必要となる。なお、このような状況をふまえると、今回の運営指導チーム（以下指導チームという）派遣は時期としては極めて効果的であったと判断される。

TIDの機構改革はプロジェクト発足後間もなく行われたもので、専門家チーム、国内委員会とも直ちに能率低下を招くものとして反対意見を具申したが、既に遅きに失したいきさつがある。その後、専門家チーム及び国内委員会はC/P日本研修などの場で、日本の能率的なシステムの紹介に鋭意努めたが、これらの努力がタイサイドの反省材料として有効に機能したものと推定される。

なお、インタビューにおいて一部のC/Pから、組織と並行して人間関係が大切との意見があったが、含蓄のある言葉として受けとめるべきであろう。

TID一部組織のTTIへの移管については、実質的な移管はプロジェクト終了後（念のため中間モニタリングの段階で再度確認要す）とのことであり、特にプロジェクトの実施に影響を及ぼす要素は少ないが、プロジェクト終了後の移転において、速やかにTTIを利益の出る体制とするなどの下地作りが望まれ、このためには、信頼度の高い成績書の速やかな発行、クレームの解析処理能力と企業指導力の強化、広報・宣伝活動への支援（資金面含む）がポイントになる。

3)実務教育の重要性

多くのC/Pが認めていることであるが、身分職階制度の関係からC/P自身理論に比較して実務経験が不足している。将来的に企業指導の場が出てくれば、机上空論では通用しないので、可能な限り専門家が実務を通して技術を移転するスタンスが後期にはより重要となる。

4)品質管理技術

ここでいう品質管理技術は、狭義にはマネジメントシステム、すなわち、T I Dの受付から成績書発行にいたる仕事の流れの管理技術が中核となり、業務の効率化を目的とするものである。

当初品質管理技術の移転は、検査・試験技術移転の過程において包括的に供与する方向であったが、プロジェクト発足後早期に技術供与項目として顕在化させたことは専門家チームとして適切な判断であったと考える。

当該品質管理技術は、当然の事ながらT I Dの組織・人的資源との調整も必要であり、広義にはI S O 9 0 0 0シリーズも包含される。又、この技術の活用には特に自助努力が必要であり、従って、他の移転技術に比べ特異かつ広範な性格を持つものとなる。

このため、タイサイドからはターゲットレベルを4又は5にするなど更に上げてほしいとの要求があったが、特に技術範囲が広範であることと、I S O 9 0 0 0シリーズへの対応は前述自助努力という観点から情報提供程度にとどめざるを得ないことを説明し、ターゲットレベル3で合意を得た。

5)機器分析技術

分析機器としては、供与対象となっているF T I R (フーリエ変換赤外分光光度計)、U V (紫外可視分光光度計)、A A (原子吸光分光光度計)、H P L C (高速液体クロマトグラフ)、G C (ガスクロマトグラフ)の他多種多様なものがある。いずれも高価な試験用機器であり、日本国内の場合、前2者の機材は繊維製品の試験に不可欠な機器であり使用頻度も高い。

後3者の機材は、日本国内の場合、過去には繊維製品に含まれる有害物質の分析に不可欠であり多用された経緯があるが、これらの問題がクリアされた現在、日本国内での繊維製品の試験における直接的な使用例は少ない。しかしながら、実際問題として、繊維製品の試験技術は多くの基礎技術と日常作業の積み重ねの上に構築されるものであることを考えると、当該3機材は特に当該基礎技術力向上に不可欠である。このため繊維製品の欠点解析を中心に、特に公設の試験研究機関には必ず設置されているといっても過言ではない。又、繊維加工技術分野では、染料、樹脂などの分析に威力を発揮するため必須の機器となる。

このような観点から、繊維技術に関わる国家的な拠り所となるT I Dにおいてはその必要性は高いものと判断され供与となったものであるが、11年度機材として供与要請のある走査型電子顕微鏡(当該3機材にくらべ汎用性にすぐれ、取扱いも容易であり、宣伝効果が高い利点がある)についても同様の考察が出来る。

当該3機材は精密にして高精度な解析力をもつ技術的に奥の深い機器であることから、その取り扱いには高度な専門技術が必要となり、一人で全機材を指導出来る人材のリクルートは全く困難な状態にある。当該3機材の技術移転は、機材供与が11年となることから当然後期となるが、前述のとおり短期専門家のリクルートには困難をとまなうため、機材据え付け及び技術移転に関わる複数の短期専門家、C/P日本研修など互いに補完し合う技術移転が必要となる。又、このような状況から、当該機材に関連する技術供与項目のターゲットレベルは3とすることで合意を得た。

6) 技術協力計画進捗状況表の作成

当該状況表は、指導チームの持参した原案をたたき合に、まず専門家チームとの協議により日本サイド案を作成した。日本サイド案は、その後担当分野毎に専門家とC/P間ですり合わせが行われた後、最後に運営指導チーム、専門家チーム、C/P（チャヌドン課長含む）間で確認が行われ、ミニッツ記載となった。

原則的に日本サイド案が受け入れられたため、特に意見の食い違いなどはなく、作成作業は順調に推移した。

2. C/Pインタビュー表の作成

専門家チームより提示されたインタビュー候補者名簿及び担当業務表（別添4）をもとに、指導チームと専門家チームで討議を行い対象者・時間割表を作成した。

指導チームの用意した質問事項を英・タイ語に翻訳し、対象者・時間割表とともに前日にタイサイドに手渡した。インタビューは堤、原団員及び個々のC/P、タイ語通訳の4名によって行われ、一人約30分を要した。その結果をT I T U C/P インタビュー表としてC/Pの顔写真を添えて取りまとめた。

インタビュー結果の概要は以下のとおり。

- 1) プロジェクトに対しては好意的であり評価も高い（タイ側の国民性に加えC/Pと専門家チームの関係が良好なことや、前述のようにT I Dの組織改革の問題に関心が集中しているなどの事情もあるので、多少割引して考える必要はある）。なお、長期専門家に対しては、その真摯な対応を評価したうえで、微妙な場面や立ち入った場面において言語の壁がどうしても障害となる、実務面の指導にもっと入り込んでほしい（供与機材が多数入荷し、しかも新実験棟建設に関連した設置場所のトラブル対応などに追われる昨今を考慮するとやむを得ない面もある）などの要望があった。
- 2) 短期専門家に対する評価が特に高い。この理由として、技術供与項目の選定がタイサイドの要求にマッチしていたこと、国内委員会により適切な人材の推薦が行われたこと、短期専門家の派遣に際して専門家チームが短期専門家との事前準備を緊密にし行うべきことを明確にするとともに、派遣時にあっては短期専門家の能力を適格に引き出すよう努力したことなどが考えられる。このような状況から当然のことではあるが、派遣期間を長くしてほしい、複数の短期専門家の同時派遣はやめてほしい（講義の重複がある）、再度同一短期専門家の派遣を希望するなどの前向きな要望があった。
- 3) C/P日本研修に対する評価が高いが、このような評価を受けたことは国内委員会事務局にとっても励みになる。
- 4) T I D組織に対する批判がある。特に、一昨年行われた機構改革により、各部門間の連携がうまく行かず（これに耐光試験機など従来よりT I Dで使用している機材の慢性不良現象が重なったものと推定される）能率が低下しているとの批判が多く、関連してマネジメントシステムに関わる技術供与の要請があった。
- 5) 理論面より実務面での技術指導に対する希望が多い。
- 6) 供与機材の追加要請がある。
- 7) C/Pの一部に、上層部に対する不信感が感じとられる。

3. 機材計画について

1) 8～9年度供与機材

専門家チーム作成の供与機材状況表（別添5）と供与機材配置表（別添6, 7）を参照にサイト見学による状況確認と写真撮影（付録）を行った結果、キセノンウエザーメーター、引裂き試験機を除く主要機種につきその配置と稼動状態が確認された。なお、UV(Ultraviolet and Visible Spectrophotometer)はソフトを再インストール中であった。

前述2機材は未稼動であったが、その理由は以下のとおり。なお、これらの機材に関わる技術供与は後期に持ち越されるが、主として機材の使用方法和メンテナンスに関わるものであり特に全体計画上の障害とはならない。

・キセノンウエザーメーター(Xenon Weather Meter)

TID使用の水道水の温度が高いため、内蔵する冷却装置のみでは十分な要部冷却が不可能なことが判明している。このため、10年度供与機材として冷却装置を追加供与することにより対応を予定しており未稼動となっている。

・引裂き試験機(Tearing Tester)

シーケンスコントローラーに不具合があることがわかり未稼動となっている。現在日本返送による修理手続き中である。

2) 10年度供与機材

供与が予定されている主な機材は以下のとおりであり、現在JICA本部にて手続き中である。なお、AA、HPLC、GCについては、TTIがEcoLab用として別途調達済みであるが、当該プロジェクト(TITU)の使用目的とは異なる(各種付属品を使用目的により組み合わせ専用システムとして使用するケースが多く、多目的使用は好ましくない)二重供与には該当しないと判断される。

・AA(原子吸光分光光度計)

・HPLC(高速液体クロマトグラフ)

・GC(ガスクロマトグラフ)

・45度法燃焼試験機

・耐光試験機用冷却装置

・繊維拡大映像装置

3) 11年度供与機材

専門家チームより候補として提示されている機材は以下のとおりである。本件については、リーダー会議を別途として別途専門家チームとJICA本部、国内委員会とで協議することとしたが、走査型電子顕微鏡など高額な機材については、技術協力計画進捗状況表には記載せず協議対象にはしなかった。

・走査型電子顕微鏡

・ドライクリーニング試験機

・偏光顕微鏡用ビデオカメラ

・引裂き試験機(12.8Kg)

・顕微鏡用マイクローム

・FTIR用データベースソフト

4) 新実験棟建物レイアウト案の作成

専門家チームと新実験棟の見学調査及びタイサイド最新案の検討を行い、建物レイアウト(部屋割り)に関わる意見書(別添8)を作成した。当該意見書をもとにタイサイド(チャヌドン課長を中心に関連C/Pを含め)と協議し、共同で建物レイアウト案(別添9)を作成した。なお、新実験棟の完成状況(写真)を付録として添付する。

なお、タイサイド原案に対する主な変更事項は次のとおりである。

- ・ 検反機室面積を約2倍に拡大し、ピリング試験機もここに設置する。
- ・ 物理試験室の1/3を恒温恒湿室とし、残りは通常空調とする。
- ・ 試験関係（物理、化学）の設備を3階に集中させる。
- ・ FTIR、UV、AA、HPLC、GCを1室に集中配置し機器分析室（4階）とする。
- ・ 床材は陶製タイルからラバータイルに変更する。

5) 機材のレイアウト

タイサイドの建物レイアウト案に大幅な変更を行ったため、日本側がたたき台として用意した機材のレイアウト案では対応出来なくなり、別途専門化チームとタイサイドとの間で作成するものとした。

4. フリートーキング

最終日（12月25日）、専門家チーム、堤、原団員、TID（チャヌドン課長、チャイヨン、サララート、ピサマイの各Labチーフ）とタイ語通訳をいれてフリートーキングを行った。

フリートーキングの発言要旨は大略以下のとおりである（通訳経由であり正確さには欠けるきらいがあるが、おおよその雰囲気掌握を目的として）。

- 1) 検査・試験技術の向上は実践にある。検査・試験の依頼がなくとも、いろいろな布があればデータ比較ができるので、これらの布を用いこまめに練習を行ってほしい。繰り返しの作業量が技術を向上させることを知ってほしい。
- 2) 一番大切なことは一人の技術者がより多くの項目の試験を出来ることが重要なことで、結果としてクイックレスポンスにつながるようになる。
- 3) 依頼件数もLab1を除いて増えていないようであるが、TIDの存在価値を知らしめるにはPRも必要である。同時に依頼品をより早くより正確に処理し、かつ、品質改善に役立つ情報を提供することである（以上 堤）。
- 4) ミニッツは調印していないが、大筋では合意している。ここに書かれていることを双方が理解し実行しなければならないことばかりである。

なお、

- (1) 3月には今回の討議結果をもとに評価のフォーマット化、PDMについては専門家チームとTIDのすり合わせが必要であり、統計データの構築やPDMを確実に実行するためにはプライオリティを決めタイムスケジュールを守る必要がある。
 - (2) 3月には巡回調査団が訪タイし今後の活動についての大筋が決まるが、9月に予定しているジョイント・コミッティにはJICA本部の出席はなくプロジェクトチームとTIDで見直しを含め行うので、十分に今回の打ち合わせと、既に示されたミニッツの内容を理解してもらいたい。
 - (3) 新実験棟の建設、又、移転は残っているが、7月末に新しいTIDのオープニングセレモニーが出来ないと本プロジェクトは不成功といわざるを得ない（幾原）。
- 5) 以上の日本側発言に対しタイ側から多くの意見が出された。
- (1) この1週間で、ミニッツのドラフトが出来たことはタイ側も見習ってほしい。日本チームは十分な準備がなくても、計画を立て、専門家チームと協力し、それぞれを分担しまとめるテクニクを持っている。
 - (2) ここに書かれていることは、日・タイ双方がやるべきこと、協力すべきことである。これからやらなければならないことは解っている。又 今後2年間の目

標もはっきりしている。

- (3)山下さんからPCM、PDMの説明を受け、内容としては理解している。タイ側としては、検査・試験なくして新しい生産改善はないと考えている。又、これをもとに標準化やタイ繊維産業の競争強化にTIITUが役立つものと考えている。
- (4)最初の2年間は問題があった。新実験棟建設が途中から始まり、人のレベルアップ、機械のことに集中したため十分なサービス・宣伝が出来なかった。特に英語が通じないため会話が不足したことであるが、今後は定期的に通訳をおいたほうが良いと考えている。
- (5)人の問題（勤務状態、配置）は解決していないがTIDはひとつのグループとして日本のアドバイスをうけ顧客のニーズに合わせた仕事をしなければならない（以上チャヌドン）。
- (6)TIDの知名度は低いし、実力からも堤さんの発言のようなクイックレスポンスにはまだ対応出来ないことも事実である。人の問題もあり、非協力な人も多い。堤さんの発言のように繰り返し行うことも大切である。私は問題意識を持って対応している（チャイヨン）。
- (7)まず日本人の皆さんに感謝の言葉を述べさせて下さい。ここにおられない日本人の方にも気持ちは同じです。しつこいくらい”なぜ””どうして”の質問をしますが、我々の熱意から来ていることと考えて下さい。プロジェクトは成功させたいと思います。終了後の姿は解りませんが、出来れば延長、新規プロジェクトでより完成度を高めて下さい（サララート）。
- (8)このプロジェクトは役に立っています。人のレベル、機器のレベルが向上しています。これからは企業に役立つ事が出来ます。お互い波長を合わせることが大切で、お互いの立場を理解しつつ良いところを学び合いたいと思います。我々の能力を向上させて日本の技術を取り入れられるようになりたい。TIDががんばらないとタイの繊維産業は危ない。技術の取得と発展には加速性があります、今は歩いているか自転車ですが早く自動車や地下鉄に乗りたい（ピサマイ）。

以上

TITU C/P インタビュー 表

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|
| 写真 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| C/P名 | Ms. Boopha Tuentan | Mr. Chaivong Peungkiat -Pairote | Ms. Aruna Thongthawon | Mr. Attawit Rakkawmsook | Ms. Sararat Lerdvera -Sirikul | Mr. Kraiwit Chimabutr | Ms. Kanjana Padermpol | Ms. Pissanai Likitbanakorn | Ms. Pensry Thongnophun | Mr. Chalermopol Punkao | Mr. Narumol Sirisongtham |
| 担当分野 | ・Lab1プロジェクト立上時の検査・試験部門の責任者(現在は無任所的な立場にあるが希望あり) | ・Lab1 責任者 ・物理試験のほぼ全般 ・検査のほぼ全般 | ・Lab1 ・物理試験のほぼ全般 ・検査の一部 ・ケル(IWS)関係試験全般 | ・Lab1 ・検査(主に糸) | ・Lab2 責任者 ・繊維鑑別・混用率全般 ・洗濯試験(収縮率含む) ・シグ関係の一部 | ・Lab2 ・シグ関係試験のほぼ全般 ・繊維鑑別・混用率、収縮率の一部 | ・Lab2 ・繊維鑑別、混用率 ・FTIR | ・Lab3、Lab3の所属するTextile chemistry部門の責任者 ・化学、安全性試験の一部 ・染色全般 | ・Lab3 ・化学試験のほぼ全般 ・染色堅牢度試験 | ・Lab3 ・染色堅牢度試験のほぼ全般 ・安全性試験 | ・Lab3 ・安全性試験のほぼ全般 ・化学試験 ・化学分析 |
| 年齢 | 56才 | 44才 | 45才 | 36才 | 49才 | 42才 | 31才 | 47才 | 42才 | 50才 | 36才 |
| 学歴(最終) | スチバマイ大(ホムコノミク) | タイマイ大(修士、物理) | スチバマイ大(化学) | 加サト大(土壌学、修士中退) | プリアオラ大(化学) | プリアオラ大(工業化学) | ワタニチ大(修士、応用高分子) | タイマイ大(修士、繊維化学) | ワタニチ大(修士経営学)、米国(修士、繊維化学) | ワタニチ大(修士、繊維化学) | ワタニチ大(修士、高分子化学) |
| 経歴(在職) | 35年 | 13年(TID→工業省勤務→TID後) | 14年(厚生省→大学卒業後) | 1年(9年前TIDへ、2年前自立、昨年TIDに戻る) | 21年 | 12年(5年間会社勤務後TIDへ) | 8年(大卒後、修士はTID勤務後取得) | 24年 | 19年 | 24年(会社1年後) | 12年(染料会社1年勤務後) |
| 取得できた技術の内容はどうか(自分の要求に対しての達成度合、このプロジェクトで取得出来た事等) | ・日本の高度・効率的な技術を学んだが、TIDの活用体制が不十分 ・我々の得意な理論面に日本の実務技術が加わり効果大 ・糸と布の検査 | ・検査技術はなかったため、取得は効果大 ・Lab1～3システムのミスマッチもあるが能率にかかわる技術取得が進んでいない | ・検査技術の導入は効果あった ・保温性、メスマッパスターの実務が未取得 | ・船越短専の糸関係指導は有意義、工場指導も可能になった | ・期待より達成度低い、原因はTIDの受け入れ体制にある、統制のとれていないプロジェクト対応体制を責任者を明確にして再編する必要がある | ・プロジェクトに参画して日が浅いので、特に意見ない | ・良くできたと思うが、言葉の壁があり完全とはいえない、特に微妙な場面、応用が必要な場面での意志疎通に難がある。 | ・業務の効率化が進まない | ・業務の効率化が進まない ・プロジェクトの実務技術が不足 ・これに対して新ビルとそれに伴う組織改革での改善を期待している | ・日本研修で多くを学び、能力向上に役立った | ・プロジェクトに参画して日が浅いので、特に意見ない |

| C/P名 | Ms.Booppa Tuentam | Mr.Chaiyong Peungkiat -Pairste | Ms. Aruna Thongthawon | Mr. Attawut Rakkawansook | Ms.Sararat Lerdvera -Sirikul | Mr.Kraiwit Chimabutr | Ms.Kanjana Padermpol | Ms.Pissamai Likitbanakorn | Ms.Pensry Thongrakphun | Mr.Chalermpol Punkao | Mr.Narumol Sirisongtham |
|-------------------|---|---|---|---|--|--|--|---|--|--|---|
| 今後取得したい技術、優先すべき課題 | <ul style="list-style-type: none"> 製品検査技術(再度短専希望) C/Pが企業指導出来るように マネジメントシステム | <ul style="list-style-type: none"> 更に広範な技術 | <ul style="list-style-type: none"> 検査技術を更に(理論は解っているが実務弱いので、東川短専の再派遣を) 新しい技術 | <ul style="list-style-type: none"> SPON糸試験機器のグレードアップ(特にUT-3) ワイヤマトメデータの蓄積(UT-4) | <ul style="list-style-type: none"> 中小企業のアップグレードに役立つ技術 中小企業への積極的なアプローチ(専門家と力合わせ) | <ul style="list-style-type: none"> 欠点分析技術 供与機材のメンテナンス技術(日本研修含む) マニュアルより船越短専のような実務技術 | <ul style="list-style-type: none"> 人に教えられようになりたい、そのため技術指導を | <ul style="list-style-type: none"> 分析機器3点セットの技術取得と活用 企業指導システムの確立 環境問題 ホールの効率化 | <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> 欠点原因の解析技術 | <ul style="list-style-type: none"> 特になし |
| TIDへの希望 | <ul style="list-style-type: none"> 短専のヒナ等に参加しやすくするため、スタッフの増員を 適切なマネジメントシステムの確立、現在部門間の連携が極めて悪い Lab1~3システムの見直し | <ul style="list-style-type: none"> Lab1~3システムの見直しと業務の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> Lab1~3システムの見直し 業務が選れるのは、Lab1~3システムが機能していないこともあるが、在来機材の故障も原因している。 | <ul style="list-style-type: none"> 更に糸関係の仕事継続したい | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト推進責任者の設置(Ms.Booppa適任) | <ul style="list-style-type: none"> Lab1~3システムを物理・化学システムに、但し組織よりも人が大切であるので、システムだけ変えて効果あるかは疑問 | <ul style="list-style-type: none"> Lab1~3システムの可否は解らないが、昔のように皆が色々出来るようにしてほしい 自分の意志で短専セミナーに参加できるようにしてほしい | <ul style="list-style-type: none"> マネジメントシステムの確立で作業の効率化を | <ul style="list-style-type: none"> 人の問題も含めた組織の改革、現在各Lab間の連携が不完全 業務運営の直接責任者を明確に 短専セミナーへの参加を容易に | <ul style="list-style-type: none"> 機材費等の予算増額を スタッフ増員を 仕事のしやすい環境作り | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの要素もあるが、Lab1~3のシステムはうまく機能していない 日本式QCシステムの導入 |
| プロジェクトへの希望と意見 | <ul style="list-style-type: none"> 直接マネー局長と組織について意見交換してほしい(アドバイザー等も含め) 恒温恒湿試験室は予算面での援助が必要 | <ul style="list-style-type: none"> TID所有の機材は生かして使うので、その分野の機材がほしい | <ul style="list-style-type: none"> 短専は特に高く評価している 長専もよくやってくれているが、実務指導を更に多くしてほしい | <ul style="list-style-type: none"> SPON糸試験機器のグレードアップ(特にUT-3) | <ul style="list-style-type: none"> マネジメント技術専門の短専派遣(出来れば長専) 中小企業指導を効率的に行う体制を作っ対応を | <ul style="list-style-type: none"> 日本のマネジメント技術を海外に最適の形で移転する努力を | <ul style="list-style-type: none"> 融点測定装置が故障して使えないので、修理又は供与を 短専をもっと長専に | | <ul style="list-style-type: none"> 専門家の実施指導を多く 新設備の指導 短専派遣期間は重複なして 仕事の加とメンテナンス技術の指導 | <ul style="list-style-type: none"> 新しい技術の移転 最新規格等の供与 | <ul style="list-style-type: none"> 日本のQC技術を移転しTID業務の効率化を 専門家との言葉の壁の解消(微妙な場面での意志疎通に苦慮している) |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> 早くTIDのアップグレードを、このままでは手遅れに、最善を尽くしたい | | | | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの広範なC/P研修機材供与、専門家活動には感謝、効果的 | | <ul style="list-style-type: none"> 長専は真摯かつ親切に対応してくれてありがたい | <ul style="list-style-type: none"> 当該プロジェクトに対しやや間をおいて接している印象を受けた。 | <ul style="list-style-type: none"> 留学経験があり、広い見識をもっているように感じられた | | |

添付資料 4 供与機材稼働状況表

(1)

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | #1到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|------|-------------------------|--|---------------------------|----|----------|------|------|----|
| Lab1 | Fabric Inspection Room | Electro Static Removing Device For Inspector | KASUGA DENKI | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Fabric Inspection Room | Inspection Machine With Winding Device | KITAMURA SEISAKUSHO | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Garment Inspection Room | 3D Standard for Wrinkle | | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab1 | Garment Inspection Room | 3D Standard for Seam | A SET | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab1 | Garment Inspection Room | Testing Apparatus | RCL | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab1 | Garment Inspection Room | Yarn Fault Classifying Tester | ZELLWEGER USTER | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Magnifying Glass | 104 TYPE | 3 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Mullen Type Bursting Strength Tester | ML -45KG | 1 | 97.10.14 | 良 | △ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Frazil-type Auto Air Permeability Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI AP-360I | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | ICI-type Mace Snag Tester | SDL - 078 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | ICI-type Pilling Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI P-3 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Luno Meter | TAIYO KEIKI | 3 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Magnifying Glass | TAIYO KEIKI 108 | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Martindale-type Abrasion Tester | JAMES H. Heal | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Monsant Crease Recovery Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI MR-7P | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Needle Detector | SANKODENSI | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Shifer-type Wear Abrasion Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI SAT-25C | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |

稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 一月一回未満使用

(2)

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | #1到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|------|------------------------|---------------------------------|----------------------------|----|----------|------|------|-------|
| Lab1 | Physical Testing Room | Spraying Water Resistance | SR - 1A | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Tearing Tester | DY - 6400 | 1 | 97.10.14 | 不良 | - | 日本で修理 |
| Lab1 | Physical Testing Room | Snag Tester | Atlas 1019 | 1 | 98,7,10 | 良 | △ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Spare parts For Strength Tester | TENSILON | 3 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Tape Measure | ROCK 19 METAL | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Thread Densimeter | BOSHOKU YOHIN | 30 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | TO-type Philling Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI TO-100 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Warmth Retaining Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI ASTM | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Yarn Evenes Tester | ZELLWEGER USTER UT4 | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Yarn Friction Tester | ASANO KIKAI NO.165 | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Physical Testing Room | Yarn Winding Machine | SSD-1-3 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Copy Machine | CANON Copier Model:NP 6030 | 1 | 97,10,16 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Laser Printer | HP Laser Jet 6P | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Personal Computer (Desk Top) | IBM PC 300GL | 2 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Scanner | HP Scanjet | 1 | 97,11,27 | 良 | ○ | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Software | OEM MS. Windows 95 | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab1 | Teaching Material Room | Software | MS. Office Professional 97 | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |

稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 一月一回未満使用

(3)

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | サ付到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|------|---------------------------|---|-----------------------------|----|----------|------|------|---------|
| Lab1 | Teaching Material Room | Software | MS. Office Professional 97 | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Electronic Balance | PR 5002 | 1 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Laboratory Table | MG -302 | 1 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Magnetic Stirrer | SR - 306 | 1 | 97.10.14 | 良 | △ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Mechanical Convection Drying Oven | FS - 420 | 1 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | pH Meter | F - 24 | 1 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Shaker | SA 31 | 1 | 97.10.14 | 良 | △ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Water Bath | LS - 306 | 1 | 97.10.14 | 良 | △ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Water Distillation Apparatus | GS-590 | 1 | 97.12.5 | 良 | ◎ | 71ヶ-を追加 |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Precision Balance | METTLER AG-204 | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Low Temp Circulator | TOKYOURIKAKIKAI | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab2 | Fiber Identification Room | Rotary Evaporator with Water Bath | TOKYO RIKA N - IN | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab2 | FTIR Room | Personal Computer (Desk Top) | IBM PC 300GL | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab2 | FTIR Room | Fourier Transform Infrared Spectrophometers | FTIR - 8201PC | 1 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab2 | FTIR Room | Digital microscope | VH-6300 | 1 | 98,9,4 | 良 | △ | |
| Lab2 | FTIR Room | Microscope | NIKON OPTIPHOTO X2TP-11 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | ステージを追加 |
| Lab2 | FTIR Room | Personal Computer (Note - type) | IBM Notebook Thinkpad 380/D | 1 | 97,10,21 | 良 | - | |

稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 -月一回未満使用

(4)

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | サ付到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|------|--------------------------|---|--------------------------------|----|----------|------|------|---------|
| Lab2 | Shrinkage & Washing Room | Knit Shrinkage Tester | KS - 20P | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab2 | Shrinkage & Washing Room | Washing Extractors | FOM 71MP - LAB | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab2 | Shrinkage & Washing Room | Constant Low Temperature Humidity Chamber | ADVANTEC AGX-345 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab2 | Shrinkage & Washing Room | Clothing Drying Machine | TT - 300G | 1 | 98. 4.22 | 良 | - | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Personal Computer (Note - type) | IBM Notebook Thinkpad 380/D | 1 | 97,10,21 | 良 | - | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Deskjet Printer | HP Deskjet 692C | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Personal Computer (Desk Top) | IBM PC 300GL | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Electric Drying Oven | ADVANTEC FS-420 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Parallel Stirrer | ADVANTEC SR-306 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Shaker | YAMATO KAGAKU SA-31 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Ultraviolet And Visible Spectrophotometer | SHIMADZU UV 2501PC | 1 | 98,9,4 | | | インストール中 |
| Lab3 | Chemical Testing Room | Water Bath For Magnetic Stirrer | ADVANTEC LS-306 | 1 | 98,9,4 | 良 | - | |
| Lab3 | Color Fastness Room | Perspiration Meter | PS - V | 1 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab3 | Color Fastness Room | Crock Meter | FR - IB | 1 | 97.10.14 | 良 | △ | |
| Lab3 | Color Fastness Room | Gray Scale | Metamorphosis Color Gray Scale | 3 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab3 | Color Fastness Room | Hot Presser | DH - 3 | 1 | 97.10.14 | 良 | - | |
| Lab3 | Color Fastness Room | Standard Light Source | D65 - A | 1 | 97.10.14 | 良 | ○ | |

稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 -月一回未満使用

[5]

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | 引到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|------|----------------------|--|---------------------------|----|----------|------|------|------------------|
| Lab3 | Color Fastness Room | Gray Scale | Stain Gray Scale | 3 | 97.10.14 | 良 | ○ | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Automatic Water Distillation Apparatus | ADVANTEC GS-590 | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | フィルタを追加 |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Electric Drying Oven | ADVANTEC FS-420 | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Precision Balance | METTLER AG-204 | 1 | 98,9,4 | 良 | ◎ | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Flammability Fastness Tester | DAIEIKAGAKU SEIKI | 1 | 98,9,4 | 良 | — | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Flammability Vertical Tester | SUGA TEST INSTRUMENTS | 1 | 98,9,4 | 良 | — | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Microscope Set | NIKON OPTIPHOTO X2TP-11 | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | MVSS Flammability Tester | SUGA TEST INSTRUMENTS | 1 | 98,9,4 | 良 | — | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Nitrogen Oxide Gas Tester | SUGA TEST INSTRUMENTS | 1 | 98,9,4 | 良 | — | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Shaker | YAMATO KAGAKU SA-31 | 1 | 98,9,4 | 良 | — | |
| Lab3 | Colour Fastness Room | Xenon Weather Meter | SUGA TEST INSTRUMENTS | 1 | 98,9,4 | | | 冷却器設置後新機* に設置 |
| | Expert Room | Personal Computer | Mackintosh Power 8500/132 | 1 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| | Expert Room | Printer | Canon LBP-730PS | 1 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| | Expert Room | Software | MS Office | 1 | 97.10.14 | 良 | ◎ | |
| | Library | ISO Textile Standard | | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Library | BS Standard (textile) | NIHON KIKAKU KYOKAI | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |
| | Library | JIS Standard | NIHON KIKAKU KYOKAI | 1 | 98,9,4 | 良 | ○ | |

稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 一月一回未満使用

[6] 克

| No. | 保管場所 | 機材名 | 型式、モデル | 数量 | 引到着日 | 稼働状況 | 使用頻度 | 備考 |
|-----|----------------|---|--------------------|----|----------|------|------|----|
| | Library | AATCC Standard : Technical Manual | | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Library | ASTM Textile Standard | Manual | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Library | JIS Handbook of Quality Control) | | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Library | JIS Standard : Textile (English Edition) | | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Library | JIS Standard : Textile (Japanese Edition) | | 1 | 97,6,17 | 良 | ○ | |
| | Secretary Room | Deskjet Printer | HP Deskjet 692C | 1 | 97,11,27 | 良 | ○ | |
| | Secretary Room | Personal Computer (Desk Top) | IBM PC 300GL | 1 | 97,11,27 | 良 | ◎ | |
| | Training Room | LCD Projector | Elmo EDP-2200 LCD | 1 | 97,10,14 | 良 | — | |
| | Training Room | Over Head Projector | 3M 9800 | 1 | 97,10,14 | 良 | — | |
| | Training Room | Slide Projector | Kodak Ektapro 5000 | 1 | 97,10,14 | 良 | — | |
| | | Vehicle | TOYOTA HI-ACE | 1 | 98,6,24 | 良 | ◎ | |

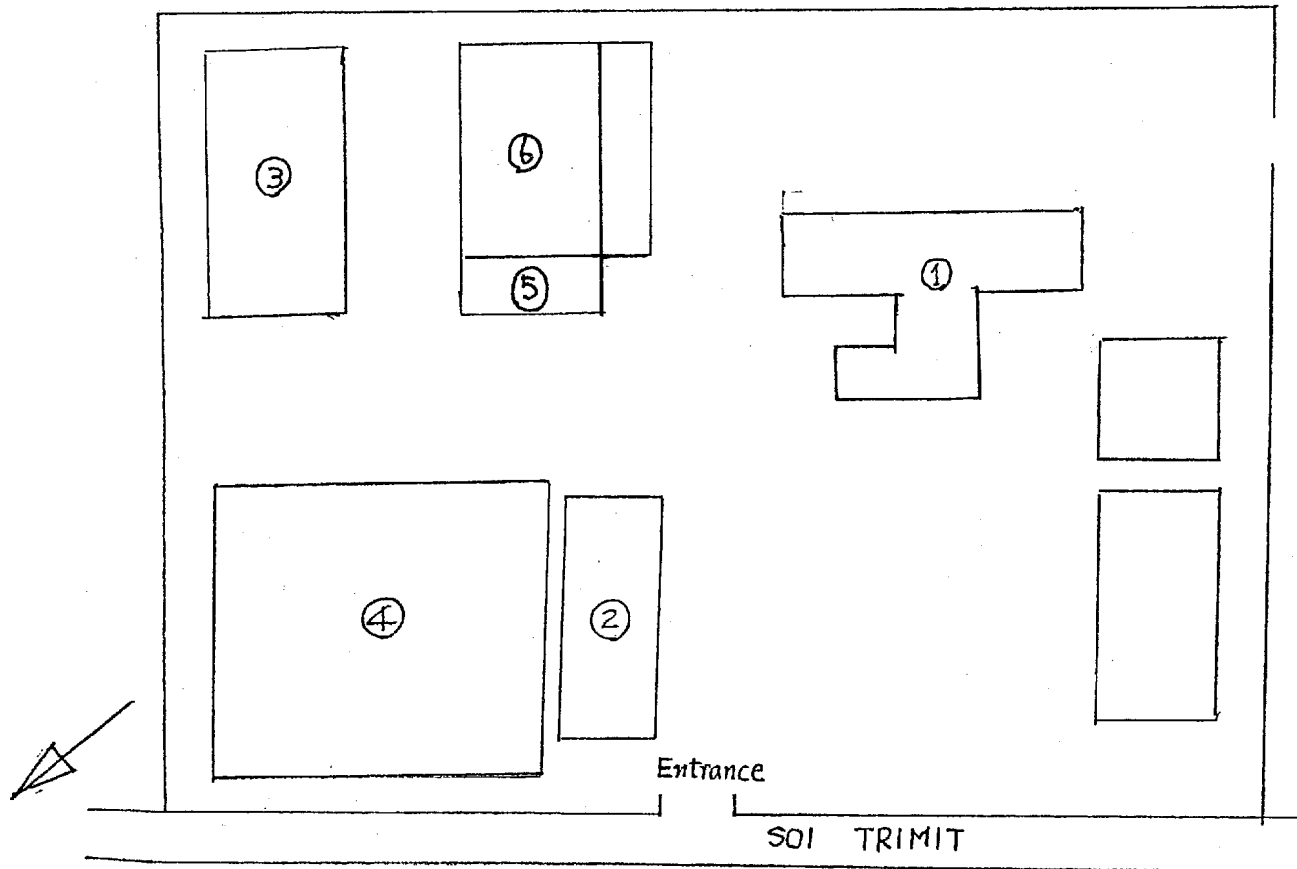
稼働状況：良 正常に稼働 不良 故障箇所有り

使用状況：◎毎日仕様 ○週一回以上使用 △月一回以上使用 一月一回未満使用

1998.12.18 現行

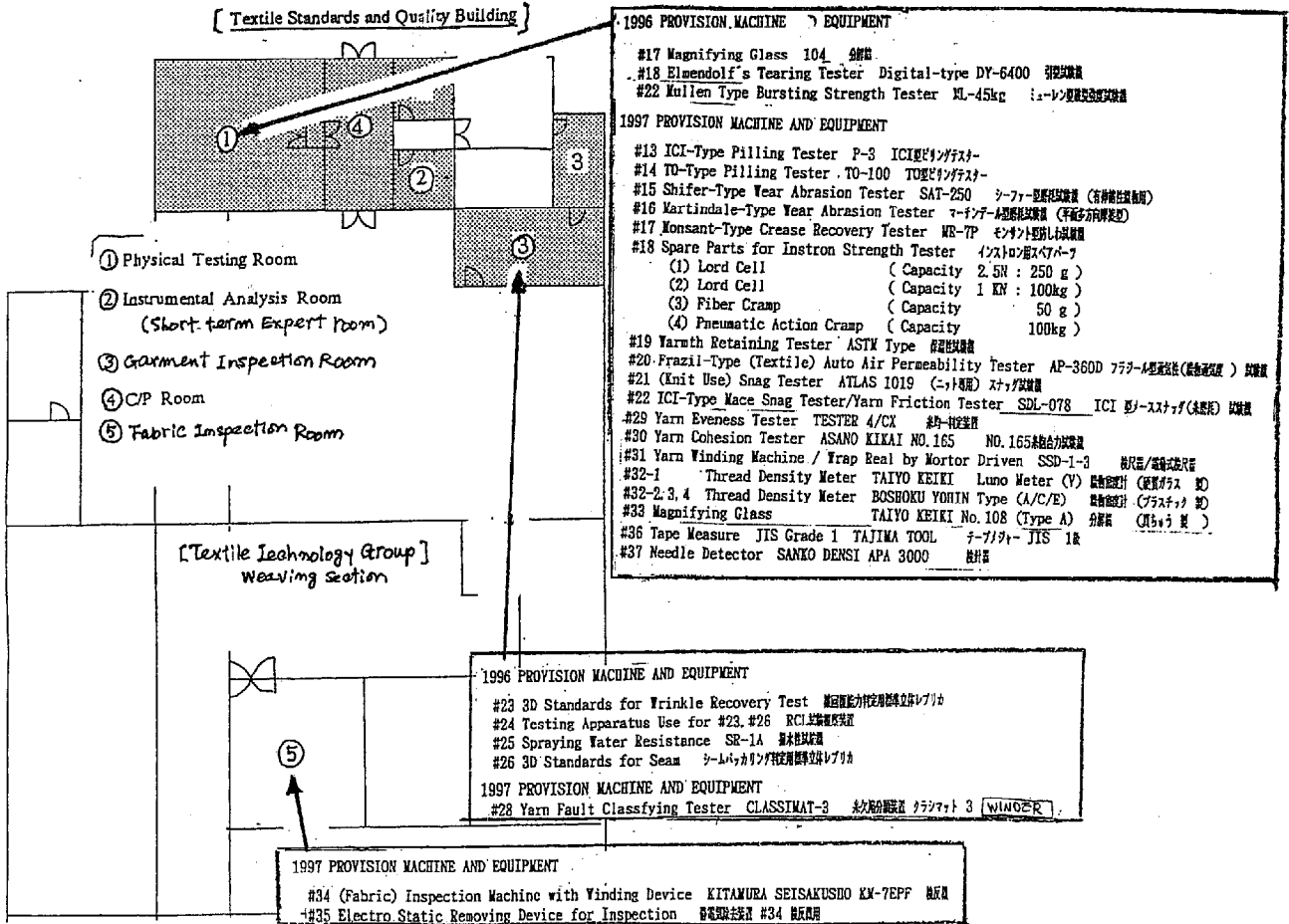
物理 機材配置図

(TID 建物配置図)

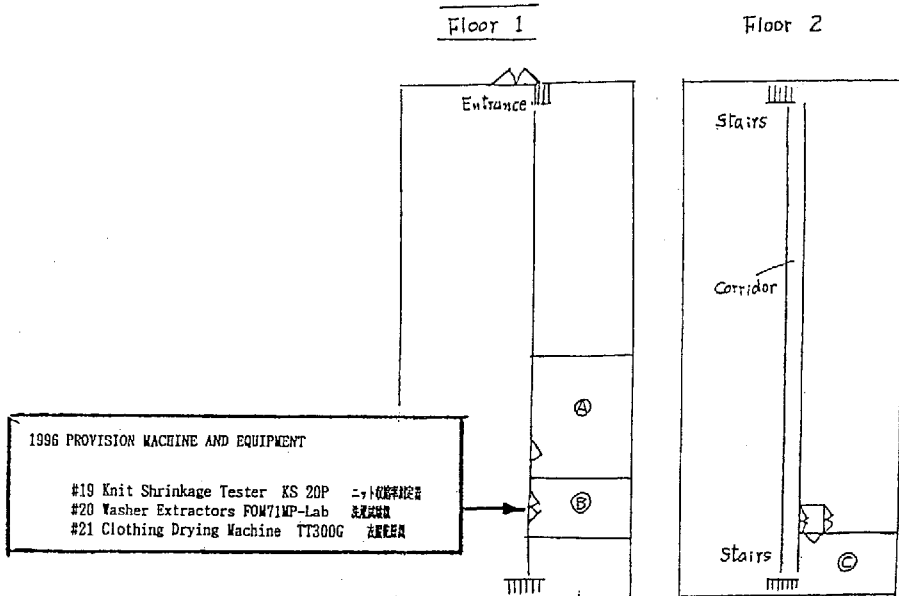


- ① Administative building
- ② Chemical building
- ③ Silk building
- ④ New building
- ⑤ Textile Standards and Quality Building
- ⑥ Textile Technology Group

[Textile Standards and Quality Building]



[S:IK building]

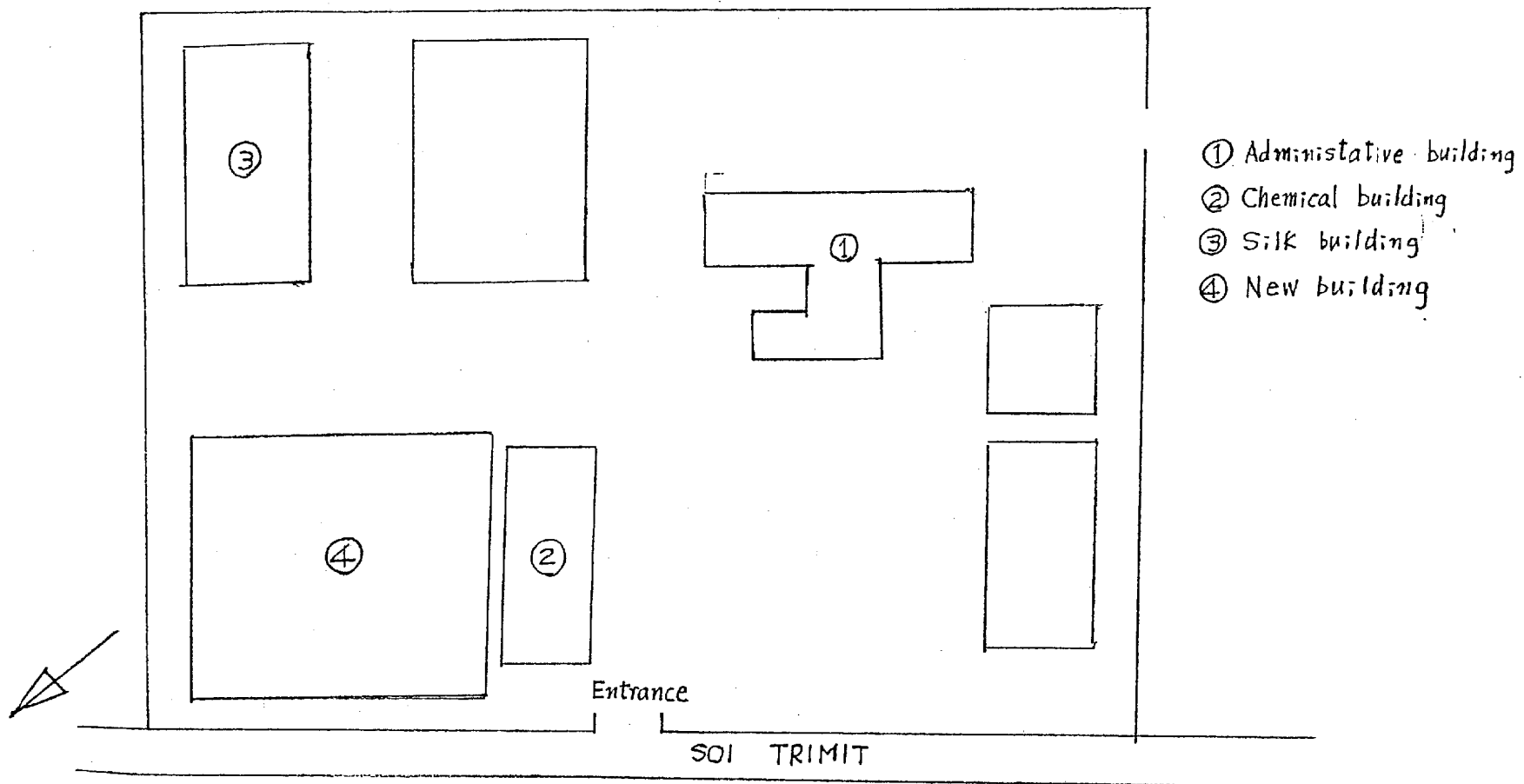


- ④ Fiber identification room
- ⑤ Washing and shrinkage room

化学 機材配置図

1998.12.18 現在

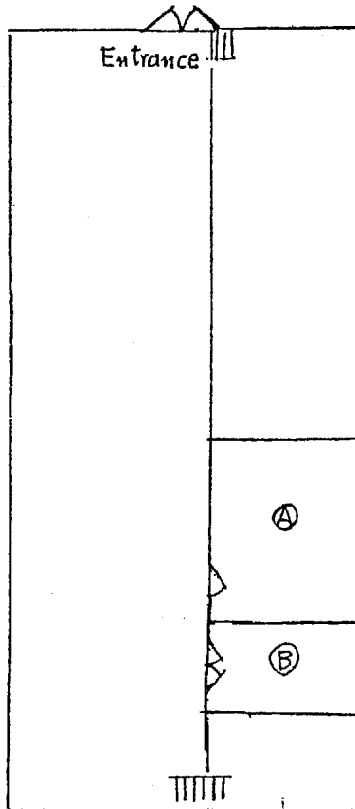
(TID 建物配置図)



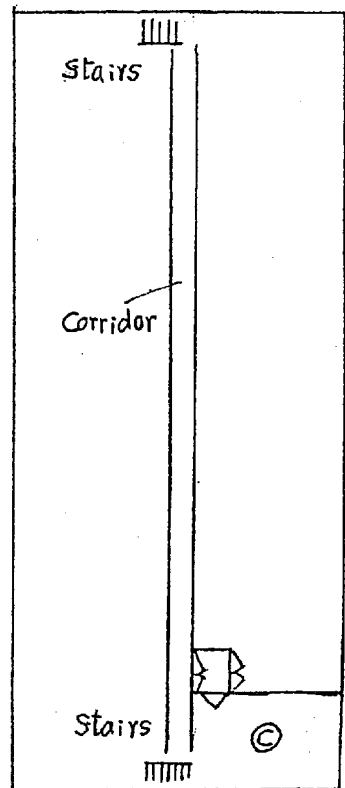
(機材設置 部屋名称)

Silk building

Floor 1

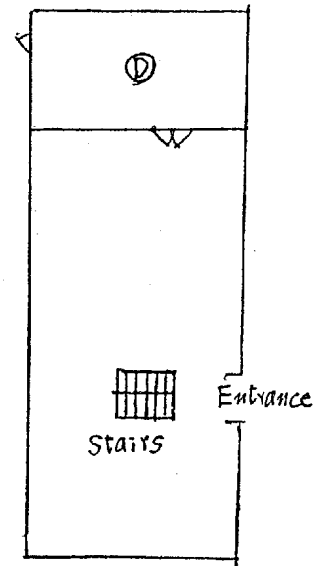


Floor 2

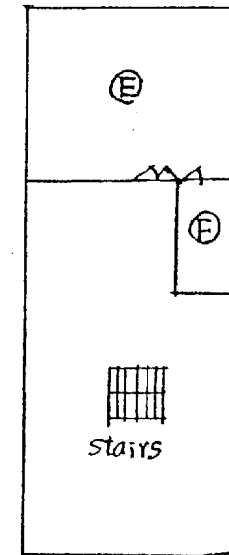


Chemical Building

Floor 1

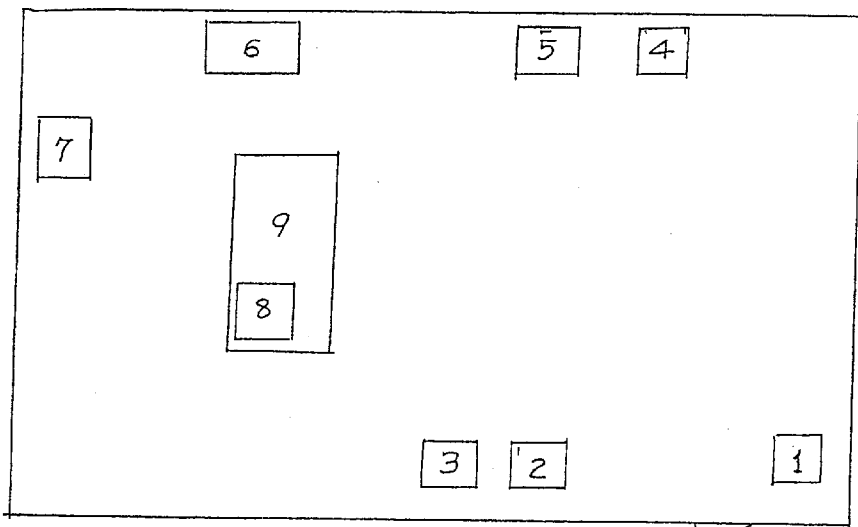


Floor 2



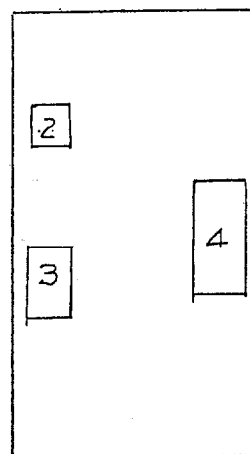
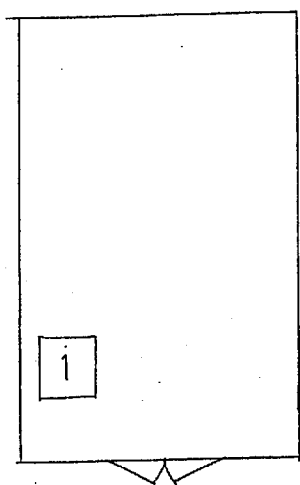
- Ⓐ Fiber identification room
- Ⓑ Washing and shrinkage room
- Ⓒ FTIR room
- Ⓓ Color fastness room
- Ⓔ Chemical testing room
- Ⓕ Instrumental room

Ⓐ Fiber identification room



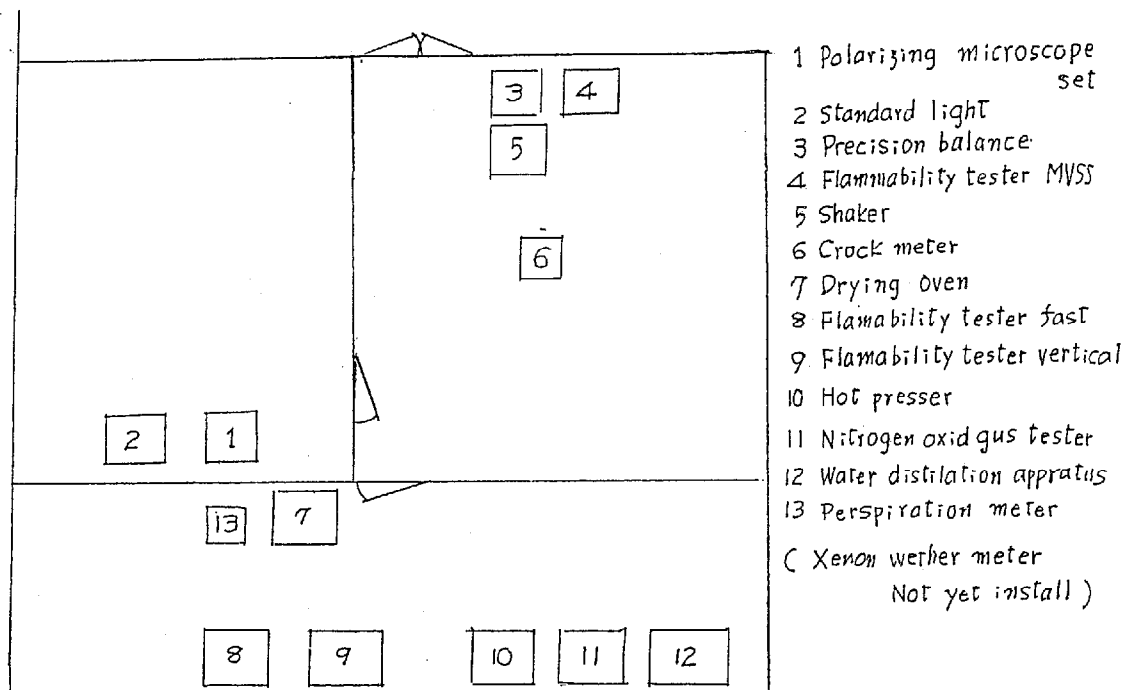
- 1 Precision balance
- 2 Parallel stirrer & water bath
- 3 Shaker
- 4 Low temperature circulator
- 5 Rotary evaporator
- 6 Water distillation apparatus
- 7 Drying oven
- 8 PH Meter
- 9 Center table

Ⓑ Washing and shrinkage room Ⓒ FTIR room



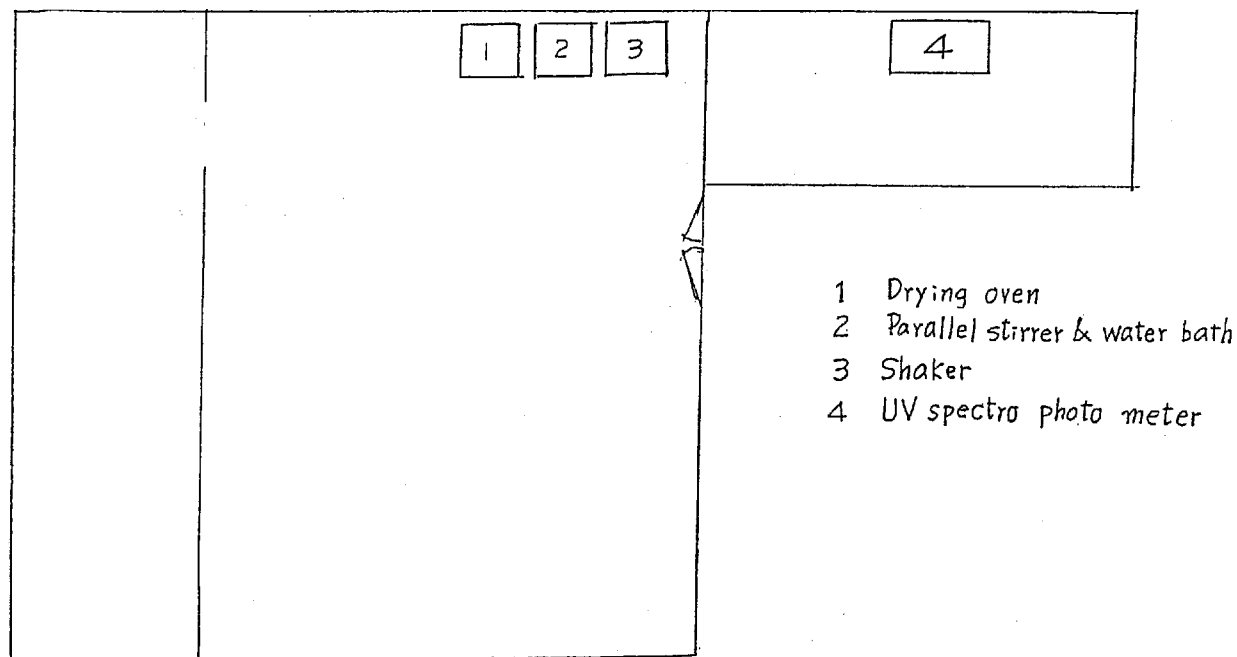
- 1 Constant low temperature humidity chamber
- 2 Polarizing microscope
- 3 Digital microscope set
- 4 FTIR

① Color fastness room



② Chemical testing room

③ Instrumental room



添付資料 6 新実験棟部屋割りに関する意見書 (暫定的な協議結果)

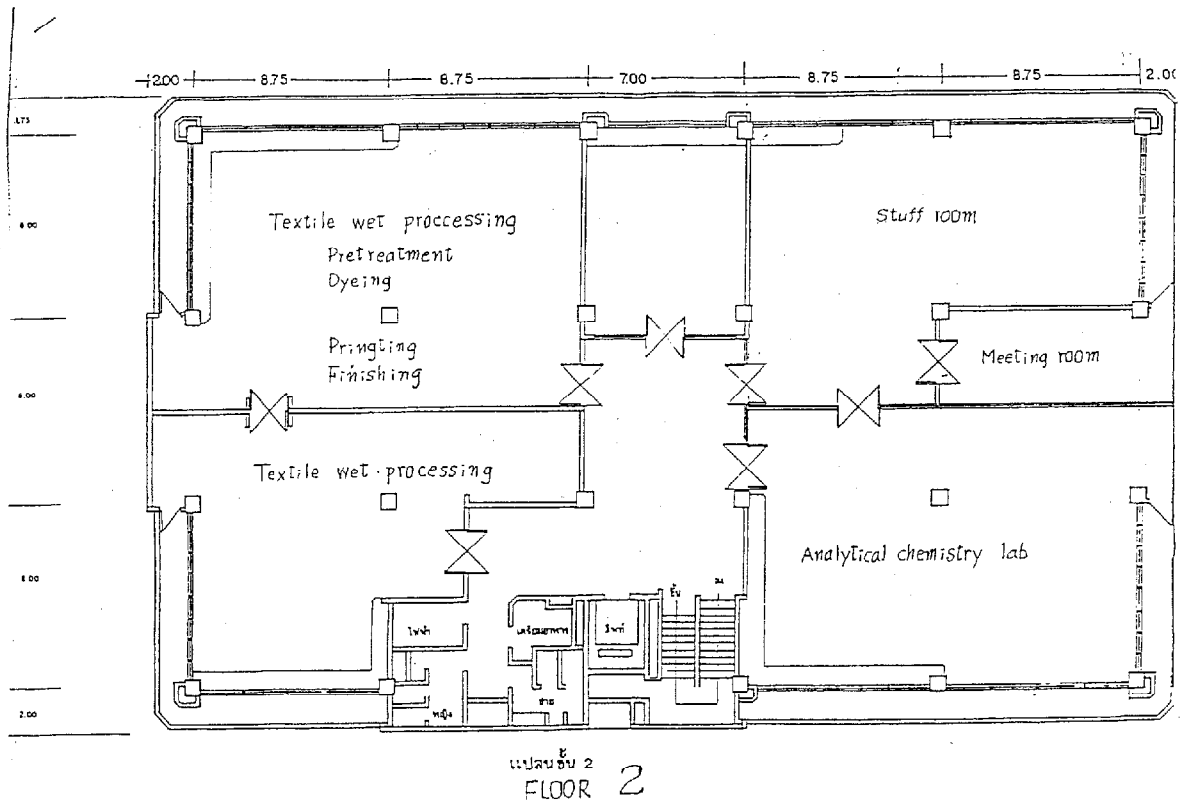
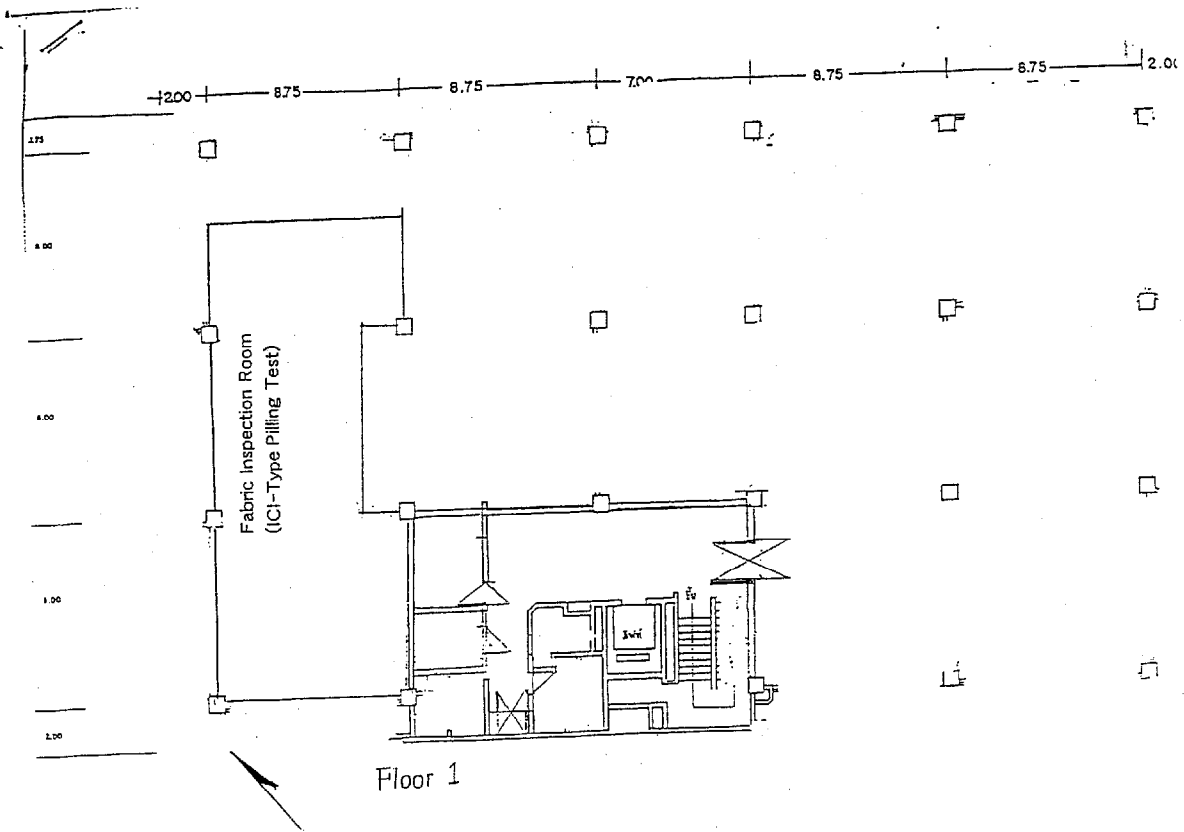
Result of Discussion regarding New Building (as of Dec 20, 1998)

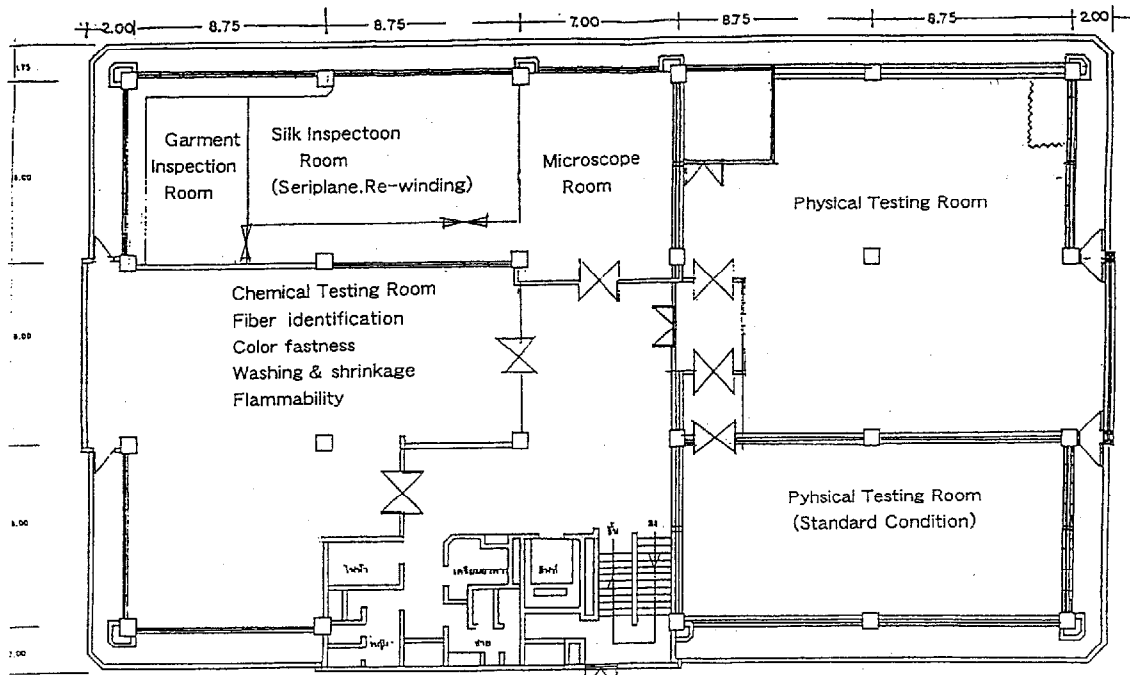
| Inquiry and suggestion from the Team | Comments from Thai Side and Results of the Discussion |
|---|--|
| <p>1 Constant Temperature and Humidity (CTH) Room</p> <p>(1) What is the setting standard of temperature and humidity of CTH room for Physics in Lab.1?</p> <p>(2) If the planned space which is southern part of the 3rd floor (24m from east to west, 17.5 meters from north to south, total area of 400 square meters) is made to be a CTH room, the volume of the space will be 1,140 cubic meters. That will cause a problem, such as poor accuracy of temp. and humidity control. For reference, the area of the current CTH room is 100 square meters.</p> <p>(3) To maintain the said are in a new Lab. to be temp. and humidity controlled, substantially high wind is necessary and its accurate control is difficult. Furthermore, scattering of testing sample such as yarn and plumage is expected occur. Such cases have actually seen in research institutes in Japan.</p> <p>(4) Testing instruments to be placed in CTH room is mainly related to the testing items handling the samples, weight, length, appearance and hardness of which to be affected by temperature and humidity condition, in addition to yarn related testing items. In other words, testing items which require true volume, crease recovery, and hardness are considered.</p> <p>Therefore, size reduction of the space or making a smaller sized CTH room in the said space should be considered.</p> <p>The equipments considered are as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Strength Tester - Yarn Evenness Tester - Tearing Tester - Bursting Tester - Abrasion Tester - Warmth Retaining Tester - Air Permeability Tester <p>It is not necessary to place HVI CIM (Classimat) in CTH room considering cotton dust, smell, and noise of machinery. And ICI piling instruments can be placed in the testing room on the 1st floor.</p> | <p>- 25+-2C and 65+-2% is planned, but the accuracy is to be the level of air conditioner. Supposing the size of 1140 cubic meters central control by duct placed in roof-space is planned. Thai side commented that they would like to be informed of the appropriate area if the size is too large.</p> <p>- In connection to the above, the Team explained the concept of testing equipments requiring constant temp. and humidity and example of testing equipments. The Team advised Thai side to decide the area after consulting with Japanese experts at first. The Team also proposed to set CTH unit in the testing room as an option.</p> <p>- Thai side explained the process of construction up to now as follows:</p> <p>Design was done by BISD. So far the possibility of changing specification has been discussed with constructors, but no conclusion yet to be made.</p> |

| Inquiry and suggestion from the Team | Comments from Thai Side and Results of the Discussion |
|--|---|
| <p>2 Room Allocation</p> <p>(1) Testing equipments concerning Color Fastness, Shrinkage and Flammability should be united in one place. Flammability requires draft chamber and color fastness for light etc. requires direct duct. Moreover general chemical testing is recommended to be equipped with draft chamber.</p> <p>Thus, the following ideas are recommended since planned area (northwestern part of 3rd floor) is too small.</p> <p>Plan A Considering the principal in which utilization of water should be done in the same floor, staff room on the 2nd floor should be considered instead.</p> <p>Plan B Staff room adjacent to planned area (northern part of the 3rd floor) should be also used</p> <p>(2) FTIR is to be placed on the northeastern part. It is recommended to be placed in the instrumental analysis room on the 4th floor to make it central analysis room. And a proper hood is necessary for atomic absorption etc..</p> <p>(3) Supply and drain of water is recommended to set at the same place on each floor with the size of piping appropriate for the usage purpose</p> | <p>- After the discussion, the following constructive ideas were proposed.</p> <ol style="list-style-type: none"> a. Flammability will move to 3rd floor from 4th floor. b. FTIR will move to Instrumental Analysis Room from 3rd floor. c. 3rd floor will be exclusively testing and inspection area. <p>And Thai side decided that the current Lab.1-3 system will be divided into two area system, that is, one is for physical testing & inspection and another is for chemical testing.</p> |

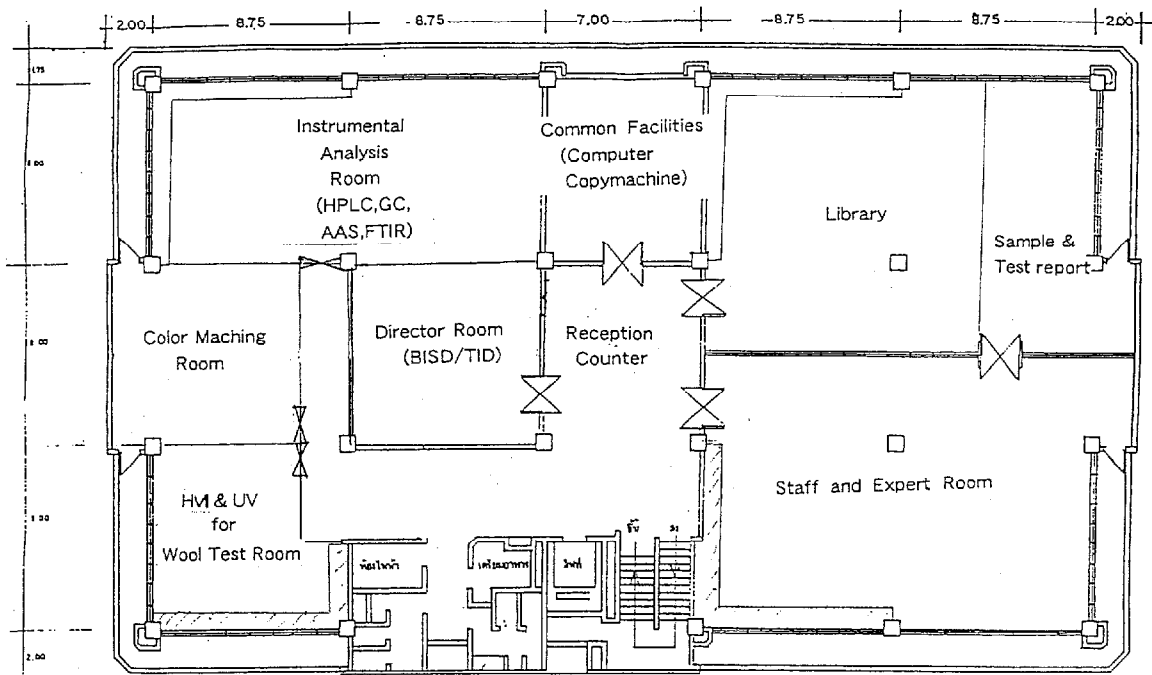
| Inquiry and suggestion from the Team | Comments from Thai Side and Results of the Discussion |
|--|--|
| <p>3 Safety</p> <p>(1) Gas cylinders and air compressor are supposed to be put on a terrace. Isn't there any problem with regard to the fire laws. And any constraints in relation to outside temperature?</p> <p>(2) The instruments which requires air compressor are as follows: - Strength Tester - Yam Evenness Tester - Tearing Tester</p> <p>(3) The floor are tiled, which causes the easy slip and hard for the goods falling down to the ground. In Japan the floor is usually waterproof rough concreting. In chemical and laundry room, rubber boots must be worn, and it is dangerous.</p> <p>(4) How is the allocation of responsible person for handling isotope?</p> | <p>- Regrading gas cylinders and air compressor, Thai side will follow the governmental regulation.</p> <p>- In view of giving priority to domestic industry, tiling was preferred, but Thai side will consider adoption of rubber sheet.</p> <p>- There is no regulation regarding use of radioactive substance for Gas Chromatography.</p> |
| <p>4 Facility</p> <p>(1) The position of power source is not good. - There is no three phase socket. Two phase sockets are very small and the position is not proper (under tables). - It is better to decide position of sockets, investigate layout using a drawing with a scale of 1 to 20 and model,</p> <p>(2) It is necessary to secure enough space in terms of height and area of the testing room on the 1st floor considering future procurement of testing equipments or increasing demand of testing request.</p> <p>(3) Safety boxes to keep chemical (hazardous chemicals) must be prepared.</p> <p>(4) There are not enough center Lab. benches. And it seems the ones in Lab.3 is damaged.</p> <p>(5) The place where laundry machine is placed must be equipped with drainage pit to prevent dust such as fibers from stacking.</p> <p>(6) Safety will be studied further.</p> <p>(7) Drainage will be studied further.</p> | <p>- Fabric Inspection Room was decided to be expanded further.</p> <p>- Thai side will take highly of the Team's suggestion and make necessary measures.</p> <p>- For drainage treatment, treatment tank is now being prepared next to building (beside a fabric room).</p> |
| <p>5 Others</p> | <p>- Thai side commented that they would like to make information room to be used for consultation room for claims from outside.</p> <p>- Thai side commented that they would like to continue discussing with Japanese experts.</p> |
| <p>6 Relocation Plan</p> <p>Answers to the following questions are requested. If necessary, Japanese side would like to consider dispatch of short-term experts.</p> <p>(1) Allocation (2) Layout of the equipment (3) Arrangement of utilities (4) Relocation (5) Installation of the group</p> | <p>Thai side will answer after the consultation with upper level.</p> |

添付資料 7 新実験棟レイアウト案





Floor 3



Floor 4

